



## Global Weighing Industry Newsletter Edition 4 (1/2021)

Prepared by CWIA, CECIP, JMIF & SMA

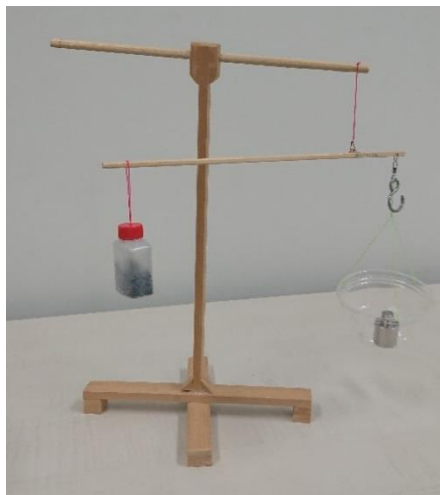
### 専門家（計量士）による小学生向けの計量教室

東京都計量検定所(TMII)、東京計量協会、東京計量士会、日本ガラス計量器工業協同組合、計量器コンサルタント協会が協力して、東京の小学生を対象とした計量教室を開催しています。

2005年から計量の普及啓発ため計量教室を開始しました。

専門家（計量士）によって考案された計量教室の内容には、寒暖計の工作、木製の棒はかりの工作及び商品の重さ調べがあります。

学校は課外授業として上記のいずれかを選択することができます。協会などのボランティア専門家（計量士）は、通常、日常生活の身近な計量の話から始まり、SI単位などのより詳細な説明を行います。その後、児童は専門家（計量士）の助けを借り、簡単な寒暖計または木製の棒はかりを組み立てます。日本の江戸時代では、木製の棒はかりが日常的に使用されていました。児童は手作りの棒はかりで身の回りの物（消しゴムや鉛筆等）の計量し、計量した物をデジタルスケールと比較すると、それらの棒はかりの正確さに驚いています。商品の重さ調べは、商品サンプルをグループ単位でデジタルスケールで計量し、実際の量と示された量を比較することによって、商品量目制度と量目公差の概念を理解するのに役立ちます。棒はかりの工作キットは、ボランティアの計量士の手作りです。



活動が始まった2005年には、東京都計量検定所や協会、計量士会等の200人以上のボランティアの協力のもと、約1,400人の児童が授業を受けました。それ以来、ボランティアの

専門家（計量士）は毎年約 15 の学校を訪問し、コロナウイルスの蔓延のためにキャンセルされた活動が中止された 2020 年度を除いて 600-900 人の児童と交流してきました。

三つの協会のメンバーは、年度末に今後の活動の改善のために意見交換や情報共有を行っています。2020 年の主なトピックは、コロナウイルス対策に細心の注意を払っての活動の実施についてでしょう。

この出前計量教室で子供たちが前向きな反応とフィードバックを示す時、専門家（計量士）たちは、この活動のやりがいを感じています。この活動は、自分たちが計量に囲まれていること、そして計量が自分たちの日常生活にどのような影響を与えているかを子供たちが理解する絶好の機会であることは確かです。